

2025年6月23日

ローム株式会社

ロームのSiC MOSFETがトヨタの中国市場向け新型BEV「bZ5」に量産採用

トラクションインバータに採用され、航続距離伸長や高性能化に貢献

ローム株式会社の第4世代SiC MOSFETベアチップを搭載したパワーモジュールが、トヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ）の中国市場向け新型クロスオーバーBEV「bZ5」のトラクションインバータに採用されました。

「bZ5」はトヨタと、BYD TOYOTA EV TECHNOLOGY カンパニー有限公司（以下、BTET）、一汽トヨタ自動車有限公司（以下、一汽トヨタ）などによって共同開発されたクロスオーバータイプのBEVで、一汽トヨタより2025年6月に発売が開始されました。

今回採用されたパワーモジュールは、ロームと正海集団との合併会社である、上海海姆希科半导体有限公司（HAIMOSIC (SHANGHAI) Co.,Ltd.）から量産出荷を開始しており、SiC MOSFETを中心としたロームのパワーソリューションが、新型BEVの航続距離伸長や高性能化に貢献しています。

ロームは、2025年に次世代となる第5世代SiC MOSFETの生産ライン構築完了を目指すとともに、第6世代及び第7世代の市場投入計画も前倒しするなど、SiCパワーデバイスの開発に注力しています。

引き続き、デバイス性能や生産効率の向上に取り組むとともに、ベアチップやディスクリート、モジュールなど、様々な形態でSiCを提供できる体制を強化することで、SiCの普及を推進し、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献してまいります。



「bZ5」について

トヨタと、BTET、一汽トヨタなどが共同開発し、「Reboot」をコンセプトに、アクティブで象徴的なスタイリングを採用したクロスオーバーBEV。Z世代と呼ばれる若い世代のユーザー向けにパーソナルな空間を楽しむ機能を追求。航続距離は下位グレードで550 km、上位グレードで630 km (CLTCモード) を誇る。

上海モーターショー2025の開幕前日である2025年4月22日に予約を開始し、大きな注目を集めている。

以 上

上海海姆希科半導体有限公司(HAIMOSIC (SHANGHAI) Co.,Ltd.)について

上海海姆希科半導体有限公司は、正海集团有限公司(中国)とローム株式会社(日本)が設立した中日合弁会社です。HAIMOSIC(ハイモシック)は主に炭化ケイ素半導体パワーモジュールの研究開発、設計、製造と販売に従事し、年間生産能力36万個/年を予定しております。総投資額は4億5000万元、資本金は2億5000万元となります。詳細については、HAIMOSICのウェブサイト(<http://www.haimosic.com/>)をご覧ください。